

アユ型いいぞ 解禁に20センチ 福井・日野川管内

2019年07月05日



釣果を見せてくれた大原さん

天候に泣かされた解禁となった。6月29日、福井・日野川漁協管内（越前市）のアユ釣りが幕開けした。悪天候の予報が出ていたため、釣り人は80人ほどと少なかった。数ではいい人は30匹近く掛けたが、2ケタ前後の人が多かった。型は良く、20センチが出た。（東條敏明）

解禁の2日前まで石はピカピカに磨かれ、アユがよく見えた。それが前日の豪雨で水位が一気に40センチ増えて平水になると、アユの姿があまり見えなくなり、石も曇った。解禁日午前10時の水温18度。早朝は掛かりが悪く、日が高くなってからぼつぼつ掛かりだしたと話す釣り人が多かった。

愛知県津島市の大原和夫さん（78）は、南越前町の八飯大橋下流に午前9時前に入川し、正午までに8匹。型は良く20センチ頭に17センチまで。「浅い瀬でガツンと掛かった。深場はダメだね」。竿8・5メートル、水中糸ナイロン0・04号、7号3本イカリのノーマル仕掛け。アユ釣り歴30年以上。午後2時半までやって18匹を追加した。「今年は楽しめそう」と大原さんの声が弾んでいた。

支流の田倉川・長沢橋上流の瀬に入った越前市の高原行雄さん（71）は、午前8時～11時半までに17～20センチを8匹。「ハミ跡が際があり、止めて待つ釣りで掛けたが、雨で魚が動いたのかイマイチ。下見ではよく見え、もっと掛かると期待したのに。まあ、8月から良くなれば…」

そのほか、本流を探り歩いていた地元の方は、漁協の今庄支所前で2匹、南条大橋周辺で2匹、新幹線橋工事付近で1匹、型は17、18センチと言い、冷水病が出た可能性もあると、話していた。

佐々木武夫副組合長（72）によると、漁協は今季、海産系自家産F1を75万匹放流した。7～15グラムになった成長の早い種苗を選抜したうえ、県内で一番早く放流（4月16～28日）を終えた。その効果か、解禁初日から20センチが出た。しかし、解禁当日の夜にまた豪雨があり、最大60センチ高の水位となって平水に戻ったのは2日で、水況が落ち着いておらず、しばらく様子見となっている。しかし、逆にそれが釣り人の足を遠ざけ、竿抜けポイントが多くなり今後、期待できるとも言える。

日券3000円、年券9000円。（問）日野川漁協今庄支所（電）0778（45）1791

今、あなたにオススメ